

第3回京丹後市庁舎整備検討委員会（10/22）における主な意見とその対応

資料1

No.	主な意見	対応・回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 m 浸かるのも 5 m 浸かるのも、どちらも差異はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水については、浸水深に差があればそのリスクには差があるものと判断しています。場所と建物、またその建物が有する機能を評価項目に記載して考察を行っています。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「市民にとって利用のしやすさ」のところで、「本庁に行く機会は少く、本庁機能集約化による利便性の向上なし。」という表現は、本庁に行かないので集約についてどうでもいように取れるので、修正した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誤解を招くような表現であったため、「本庁機能が集約化されても、市民の来庁機会は少ないため影響は小さい。」に修正しました。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ A 案、B 案だけでなく、今のままでいいという選択肢はないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに基本計画まで進んだ A 案、B 案について、まずは評価をしていただき、その後、あり方について議論いただくこととしています。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人組織なり、障害者の組織ですとか、そういったものがそこに行けば情報交換できたり、相談できたり、寄り添い支援総合サポートセンターは直接のその場所に相談に行かないといけない、市民局ではダメ。その辺の視点で両案が本当に差がないのか。福祉の視点からの評価を少し盛り込んで頂けたら。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価項目「②市民の利便性」の小項目に、「福祉団体等」を追加し、考察を行いました。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の人口、職員数について予測した検討資料を 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回目の資料4と資料7で説明させていただいたように、人口減に伴う職員数の推測は困難と考えています。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丹後庁舎の活用案がないが、現在、丹後庁舎には上下水道部が入っているので、その案があってもいいのではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丹後庁舎に上下水道部が入っているのは、網野庁舎が使用できないことによる緊急避難的なものです。A 案・B 案とも、本庁機能集約化基本方針に基づき上下水道部は移転する計画となっています。

7	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢別職員構成の状況を見ると50歳以上の方が約230人ほどなので、10年でほぼ辞められる。かなりの職員が現実として減ってくるというのは見通せるのでは。整備費とリンクするので評価も変わってくるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が退職しても、行政需要を勘案しながら採用者数を決めていくため、退職者数と職員の減少数は比例するものではありません。現在、10年先を見通した職員数の計画はありません。また人口減に伴う職員数の推測も困難と考えています。 ※本市では、適正な定員管理の指標として定員管理計画を策定しており、計画期間は4年としています。 ※平成28年4月総務省調査では、定員管理計画は全地方公共団体の56%が策定済み、16%が策定予定となっています。また、策定済み及び策定予定の28都道府県と15指定都市における策定期間年数の設定は、5年までが93.3%、10年以上が6.7%となっており、小規模自治体が将来推計することは困難。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・非常にA案優位の表現が多すぎる。それを見ると皆がA案なのかなとなる。もう一度、そのへんを平等に書いていただくと判断しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両案の計画を比較し、事務局として客観的な考察を記載していますが、それぞれの考え方の中で評価・判断していただければと思います。なお、評価項目に抜けている項目があればご指摘をお願いしています。